



RIHGA ROYAL HOTELS

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

2025年12月8日

株式会社ロイヤルホテル

証券コード | 9713

agenda

株式会社ロイヤルホテル

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会



1. 2026年3月期第2四半期(中間期) 決算概要
2. 2026年3月期 業績予想
3. 成長戦略
4. Appendix



1. 2026年3月期第2四半期(中間期) 決算概要

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

株式会社ロイヤルホテル

|| 売上高は僅かに未達ながら、利益は期初予想を上回る着地

單位：百萬円

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期		期初予想比		前年同期比	
		期初予想	実績	増減額	増減率(%)	増減額	増減率(%)
売上高	10,073	13,800	13,720	△80	△0.6	+ 3,647	+ 36.2
営業利益	△339	300	500	+ 200	—	+ 840	—
経常利益	△308	300	530	+ 230	—	+ 839	—
親会社株主に帰属する 中間純利益	△473	100	398	+ 298	—	+ 871	—

※(株)芝パークホテルについては2024年10月から連結計上



2026年3月期(中間期) 連結損益計算書

- || 芝パークホテル（株）（以下SPH社）の完全子会社化に加え、宿泊部門を中心に既存ホテルの収益も改善
- || 迎賓館運営収益が想定を上回るなど万博影響もあり、売上高、利益ともに大きく増加

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減額	増減率（％）
売上高	10,073	13,720	+ 3,647	+ 36.2
売上原価	1,605	1,857	+ 251	+ 15.7
売上総利益	8,467	11,863	+ 3,395	+ 40.1
販管費	8,807	11,362	+ 2,555	+ 29.0
営業損益	△339	500	+ 840	—
営業外収益	31	36	+ 5	+ 16.5
営業外費用	0	6	+ 6	—
経常損益	△308	530	+ 839	—
特別利益	—	—	—	—
特別損失	100	32	△68	△67.9
税金等調整前中間純利益	△408	498	+ 907	—
法人税等合計	64	86	+ 21	33.3
非支配株主に帰属する中間純利益	—	14	+ 14	—
親会社株主に帰属する中間純損益	△473	398	+ 871	—

※(株)芝パークホテルについては2024年10月から連結計上



2026年3月期第2四半期(中間期) 部門別売上高

- 客室部門は、SPH社の連結化の影響に加え、既存ホテルでも直営全ホテルで客室単価が向上
- 宴会・食堂部門では一般宴会の落ち込みを婚礼の取り込みによりカバーし前年同期比増収を確保

単位：百万円				
	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減額	増減率 (%)
売上高	10,073	13,720	+ 3,647	+ 36.2
客 室	3,842	6,391	+ 2,549	+ 66.3
宴 会	2,298	2,437	+ 138	+ 6.0
食 堂	1,478	1,884	+ 405	+ 27.4
そ の 他	2,453	3,006	+ 553	+ 22.6

※(株)芝パークホテルについては2024年10月から連結計上

単位：百万円

※(株)芝パークホテルについては2024年10月から連結計上

2026年3月期第2四半期(中間期)

連結キャッシュフロー計算書

8

|| ホテル事業の利益増加で税金等調整前中間利益は改善したが、芝パークホテルの株式取得等による投資が増加するなどし、フリーキャッシュフローはマイナス

単位：百万円

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減額	要因
現金及び現金同等物の期初残高	12,221	11,184	△1,037	
営業活動によるキャッシュ・フロー	665	494	△171	税金等調整前中間利益が改善するも、売上債権が増加、預り金が減少
投資活動によるキャッシュ・フロー	△336	△1,395	△1,059	芝パークホテルの完全子会社化等
フリーキャッシュ・フロー	329	△901	△1,230	
財務活動によるキャッシュ・フロー	△158	△230	△72	配当金の支払、借入金返済により減少
現金及び現金同等物の期末残高	12,392	10,051	△2,340	

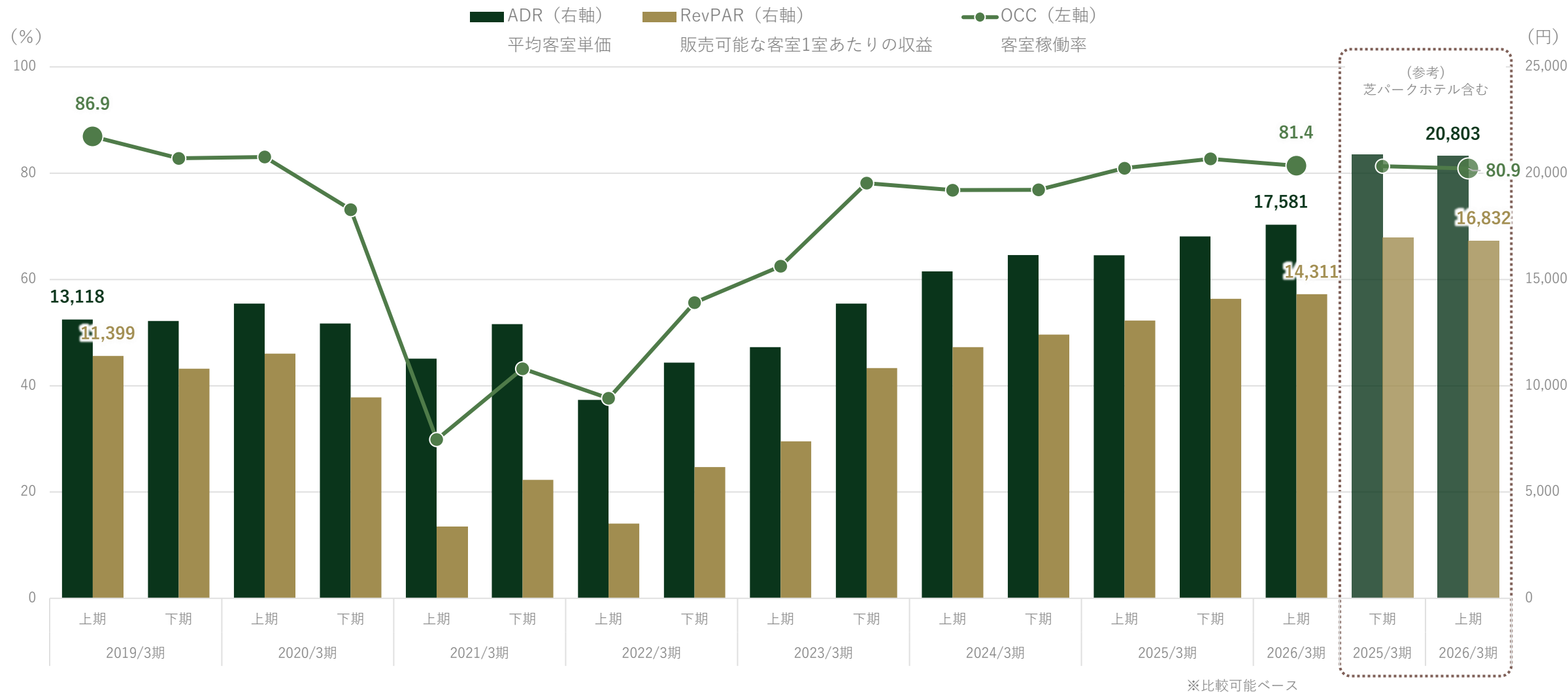
※(株)芝パークホテルについては2024年10月から連結計上

© RIHGA ROYAL HOTELS. All Rights Reserved.

客室稼働率・平均客室単価・RevPAR推移

|| 一部マーケット動向に価格選好の強まりが見られるも、機動的なレベニューマネジメントにより全ホテルでADRが向上

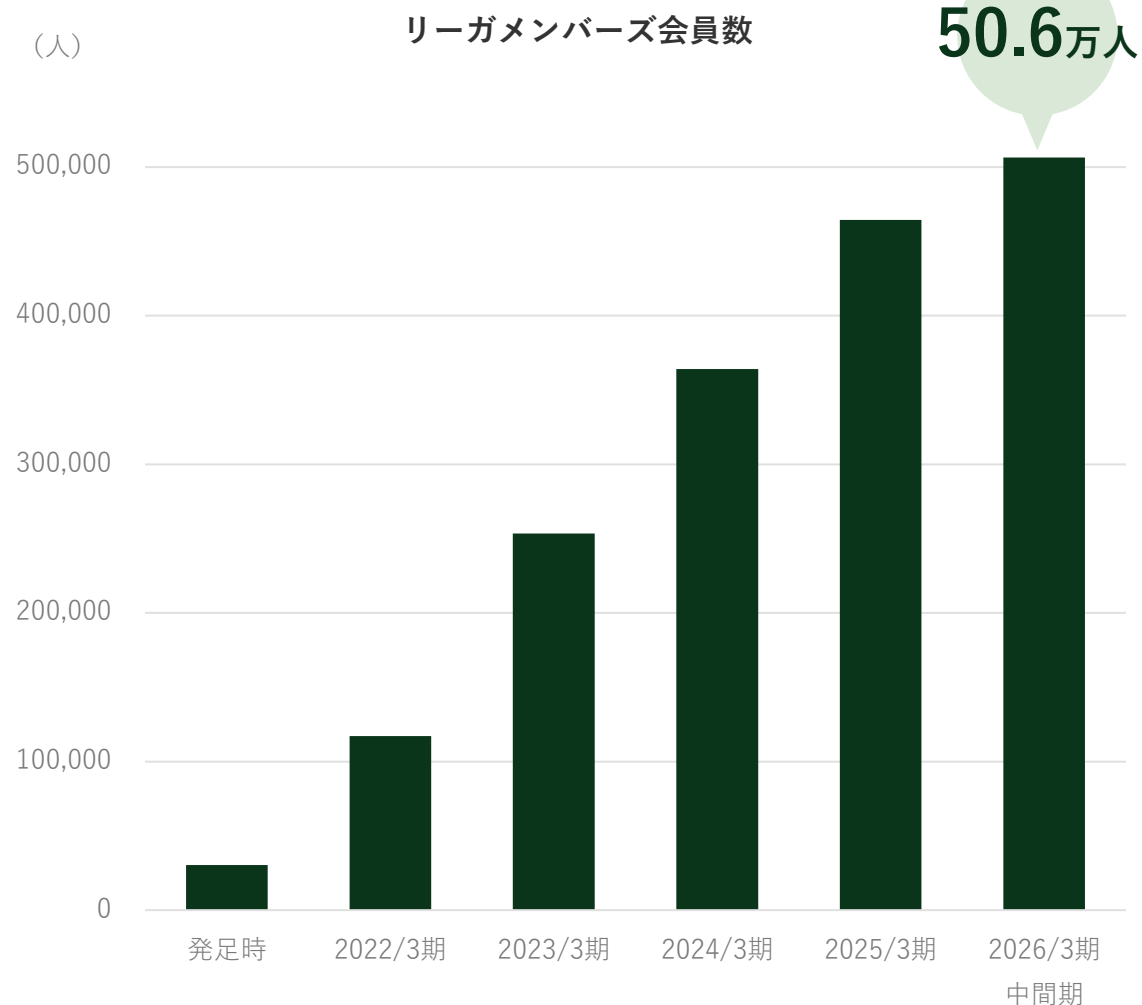
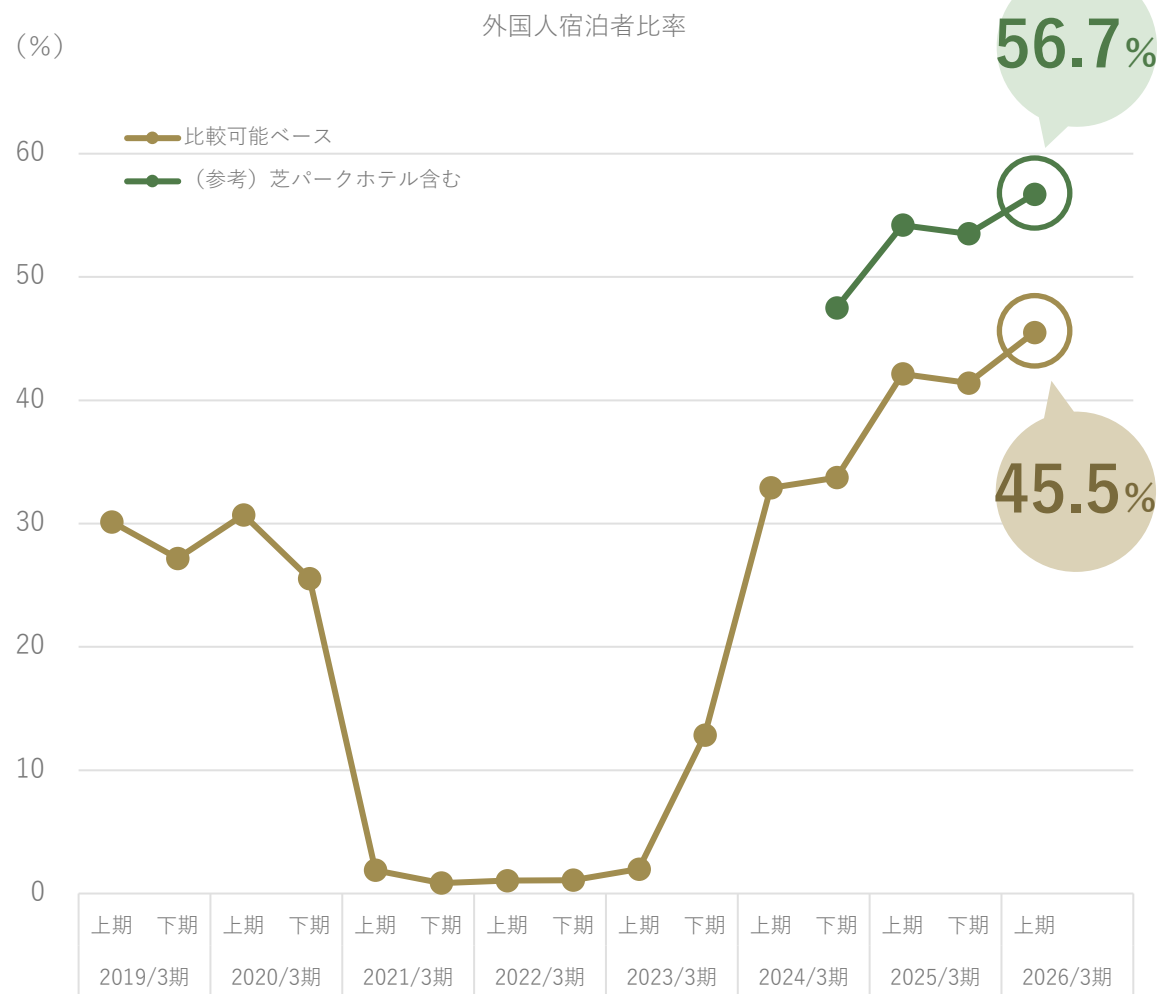
|| ADR重視の運営に注力する中で好調な稼働率を維持できたことから、販売可能な客室1室あたりの収益が拡大



外国人宿泊者比率、リーガメンバーズ会員数推移

|| リーガプレイス肥後橋（万博による内需が拡大）を除き海外顧客を拡大。インバウンド比率が56.7%まで上昇

|| リーガメンバーズは2025年9月末で50万人を突破、2030年には 100万人を展望。30代以下の若年層構成比も拡大（27.8%）





2. 2026年3月期 業績予想

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

株式会社ロイヤルホテル

|| 上期予想を過達も、万博後のリバウンドや第4四半期の業績見通しを見極めるため、通期予想は据え置き

単位：百万円

	2025/3期 実績	2026/3期予想		修正後予想前期比	
		2025/5/14 期初予想	2025/8/4 修正後予想	増減額	増減率(%)
売上高	25,164	29,200	29,200	+ 4,036	+ 16.0
営業利益	912	900	900	△12	△1.3
経常利益	796	900	900	+ 104	+ 13.1
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,726	400	600	△1,126	△65.2

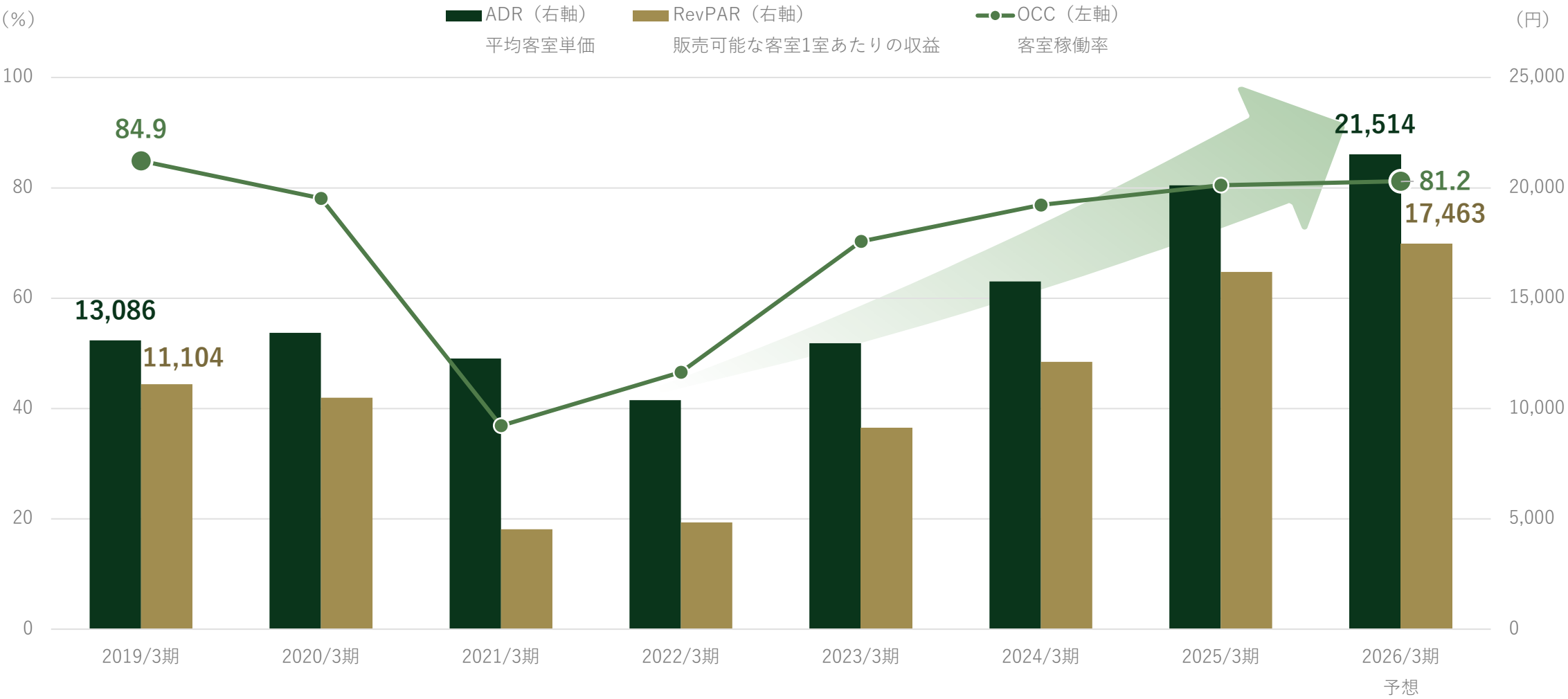
※(株)芝パークホテルについては2024年10月から連結計上



客室稼働率・平均客室単価・RevPAR推移（予想）

※期初予想変更なし

|| 引き続きインバウンド宿泊者数の増加を見込み、RevPARは前期比7.8%増の計画





3. 成長戦略

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

株式会社ロイヤルホテル



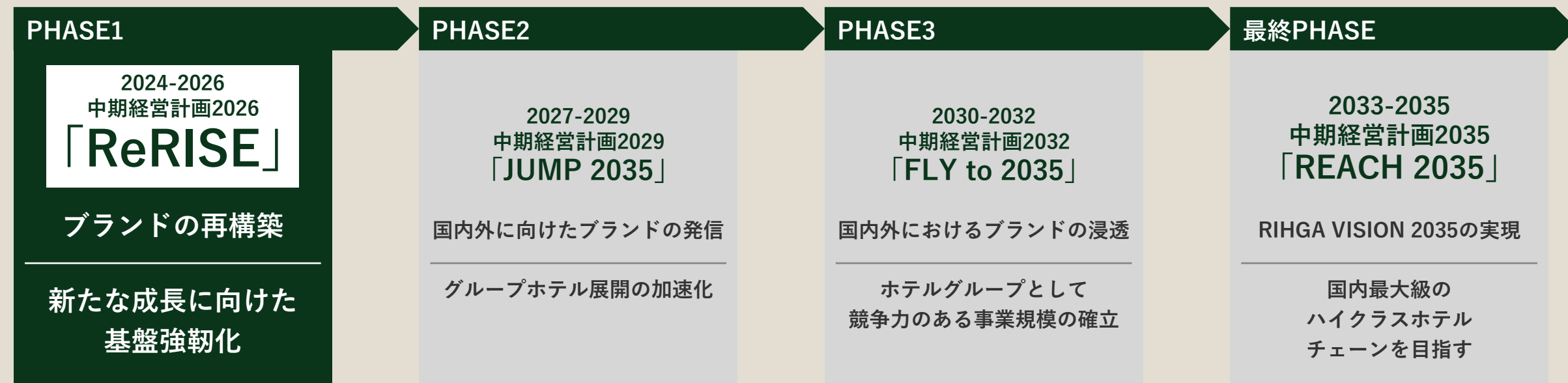
当社の成長戦略骨子

15

|| 「RIHGA VISION 2035」を策定し、長期・持続的な企業価値拡大に向け各成長フェーズにおいて実現するゴールを設定

|| 現「ReRISE」期は、成長の土台となる基盤強靱化を優先課題とし、下記戦略1～3を基本戦略として施策推進中

RIHGA VISION 2035



戦略1

ホテルブランドカテゴリーの
再編成・新規展開

戦略2

ホテル事業のバリューアップ

戦略3

インオーガニックな成長も視野に入れた
新規出店パイプラインの拡大



インオーガニックな成長（芝パークホテルの完全子会社化）

16

|| 今期、芝パークホテルの完全子会社化を実現。投資効率の高いM & Aにより連結財務内容が大幅改善

|| 課題であった東日本エリアのホテル強化、インバウンド集客チャネルの拡大により今後の成長力も向上

単位：百万円

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減
流動資産	15,839	15,134	△705
現金及び預金	12,508	11,227	△1,281
その他	3,331	3,907	+ 576
固定資産	15,380	23,375	+ 7,995
有形固定資産	1,094	8,325	+ 7,231
その他	14,286	15,050	+ 764
資産合計	31,220	38,509	+ 7,289

	2025/3期 中間期	2026/3期 中間期	増減
流動負債	4,368	4,115	△253
固定負債	7,570	11,088	+ 3,518
繰延税金負債	0	2,013	+ 2,013
その他	7,570	9,075	+ 1,505
純資産の部	19,281	23,305	+ 4,024
剰余金	19,228	21,692	+ 2,464
負債純資産合計	31,220	38,509	+ 7,289

単位：百万円

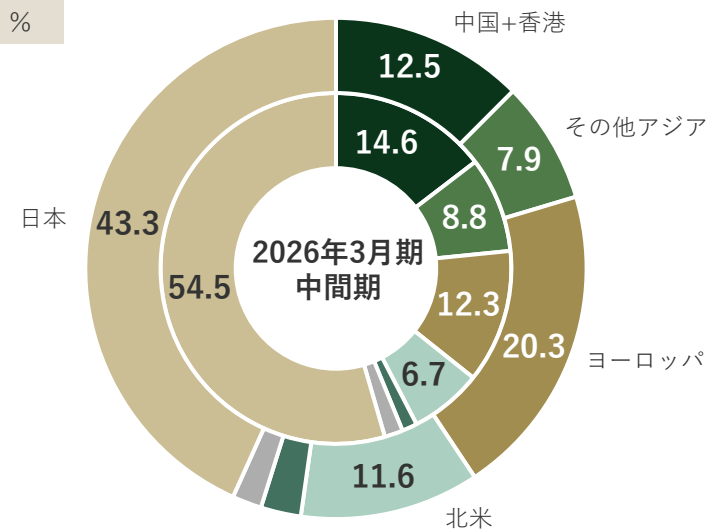
2026/3期中間期	除くSPH	含むSPH	増減額
売上高	10, 991	13,720	+ 2,729
営業損益	25	500	+ 475
経常損益	53	530	+ 477
親会社株主に帰属する 中間純損益	56	398	+ 342
ADR（客室単価）	17,581	20,803	+ 3,222
OCC（客室稼働率）	81.4%	80.9%	△0.5%

外国人宿泊者比率

単位：%

内側グラフ | ロイヤルホテルのみ
外側グラフ | 芝パークホテル含む

- 中国+香港
- その他アジア
- ヨーロッパ
- 北米
- オセアニア
- その他
- 日本



新規出店戦略の進捗状況

- || 今上期は200件超の引き合いがあり新規出店パイプラインは拡大中。現在5件の出店意向表明提出、具体的内容を協議中
- || 未確定ながら2030年迄に10ホテルの新規開業が望めるペース。2035年迄に20ホテル開業による成長を目指す



新規出店戦略の進捗状況（開業準備状況）

|| 2026年4月開業予定の2ホテルにおいては、先行予約を開始。いずれも計画を上回る価格で推移

|| 各ホテルにAIレベニューを順次導入し最適化した効率的な人員体制での運営を企図

リーガロイヤルリゾート沖縄 北谷

2026年4月開業

先行宿泊予約受付中

総客室数： 209室
収容人数： 902名

設備： レストラン1 店舗、フィットネスジム、
インフィニティプール、サウナ付スパ



「リーガロイヤルホテル」がもてなす、海と空と煌めきの沖縄アーバンリゾート

華やかで優雅な時が流れる、ここだからこそ味わえる贅沢な休日をお届けします。

アンカード・バイ・リーガ 大阪なんば

2026年4月開業

先行宿泊予約受付中

総客室数： 200室
収容人数： 579名

設備： レストラン1 店舗、大浴場、
コインランドリー



PLAYFUL OSAKA

思わず誰かに話したくなるような、記憶に残る「プレイフル」な滞在をお届けします。

新規出店戦略の進捗状況（開業準備状況）

19

|| 福岡博多・神戸有馬の出店準備も順調に進行

バウンシー・バイ・リーガ 福岡博多 2026年9月開業予定

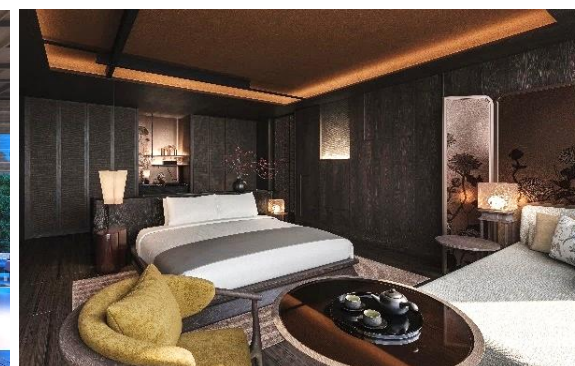
総客室数：117室



「HOTEL BAR」をテーマにリラックスした雰囲気でお酒や会話を楽しみ、随所にバーのムードを感じさせるデザインや演出で、特別な旅の時間を提供

ノワ・バイ・リーガ 神戸有馬 2028年2月開業予定

総客室数：93室



こころの静寂に、心尽くしのおもてなし

リーガロイヤルホテルブランドで培ってきた技術・サービスを最大限に活かし、オーベルジュのような体験を提供。

新規出店戦略の進捗状況（新規ホテルの事業モデル）

- || 新規開業予定ホテルは初期コストを抑制し、賃料条件は一部を変動賃料とすることで業績変動リスクを軽減
- || 運営効率を高めた宿泊特化型ホテルで省人化を図り、既存ホテル対比高い利益率の確保を目指す

	初期投資金額 (保証金・システム 費用等含む)	想定売上高	営業利益	必要社員数	総客室数
新規5ホテル合計	17億円強	60～70億円	4～5億円	約100人	約800室
1 ホテルあたり	3億円強	約14億円	約1億円	約20人	

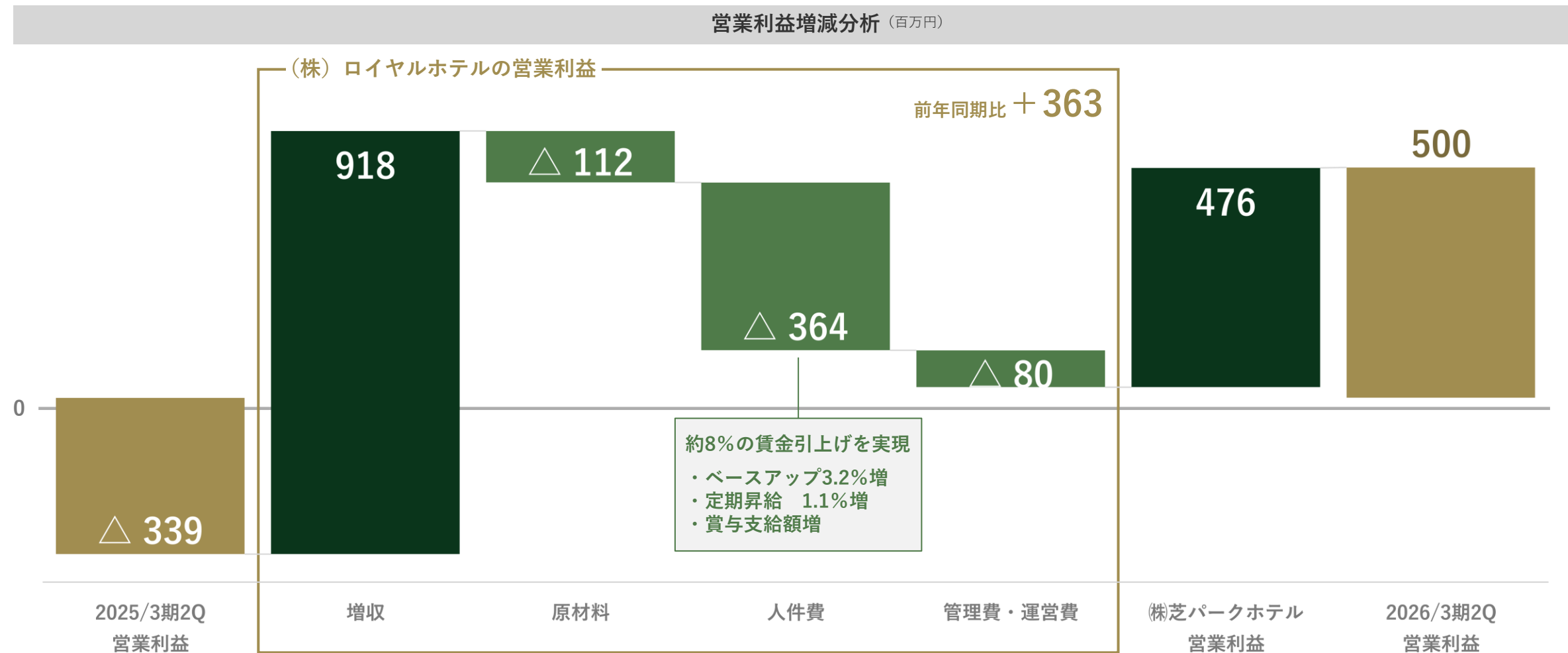
2026年～2028年 新規出店5ホテル（2025年12月時点）

ホテル名	リーガロイヤルリゾート 沖縄 北谷	アンカード・バイ・リーガ 大阪なんば	バウンシー・バイ・リーガ 福岡博多	ノワ・バイ・リーガ 神戸有馬	(未定) 広島平和大通り
タイプ	宿泊特化・リミテッド型 (リゾート)	宿泊特化・リミテッド型 (Xカテゴリー)	宿泊特化・リミテッド型 (Xカテゴリー)	宿泊特化・リミテッド型 (温泉リゾート)	宿泊特化・リミテッド型 (未定)
室数	209室	200室	117室	93室	168室

ホテル事業のバリューアップ①収益力の強化

|| ①収益力の強化：抜本的な収益性改善への取組みは道半ば。主要グランドホテルは大型改修を含めた業績改善策を検討中

|| ②成長に向けた基盤強化：人的資本拡充、海外セールス&マーケティングの強化を着実に実行



ホテル事業のバリューアップ①収益力の強化（顧客評価の改善）

|| グループホテルの口コミ評価（※）は着実に向上（※世界中の旅行サイトから情報収集・解析するTrust Youの総合スコア）

|| 設備の改修等により更なる評価・ブランド価値の向上を目指す

1ポイント以内の増減 ➡ 1~3ポイント内の増減 ➡➡ 3ポイント以上の増減 ➡➡➡

ホテル名	2022年		2023年		2024年		2025年1~10月	(参考他社平均*)
リーガロイヤルホテル大阪 (ヴィニエット コレクション ※2025/4~)	83.75	➡	83.27	↗	85.19	↗	87.38	(90.49)
リーガロイヤルホテル京都	82.77	↗	83.88	↗	85.48	↗	86.45	(89.85)
リーガロイヤルホテル東京	85.56	➡	84.29	↗	86.50	↗	88.05	(89.41)
リーガロイヤルホテル広島	84.45	↗	86.52	↗	88.16	➡	87.67	(86.48)
リーガロイヤルホテル小倉	86.02	↗	87.18	↗	90.52	↗	90.67	(90.52)
リーガグラン京都	87.33	↗	89.34	↗	90.33	↗	90.99	(89.85)
リーガプレイス肥後橋	80.28	↗	80.64	↗	82.73	↗	83.45	(84.37)
リーガプレイス京都四条烏丸	74.82	↗	84.05	↗	86.82	↗	87.32	(89.85)
都市センターホテル	84.35	↗	84.55	↗	85.99	↗	86.74	(85.50)

2025/4
改装open

2023/4
当社運営開始
改装open

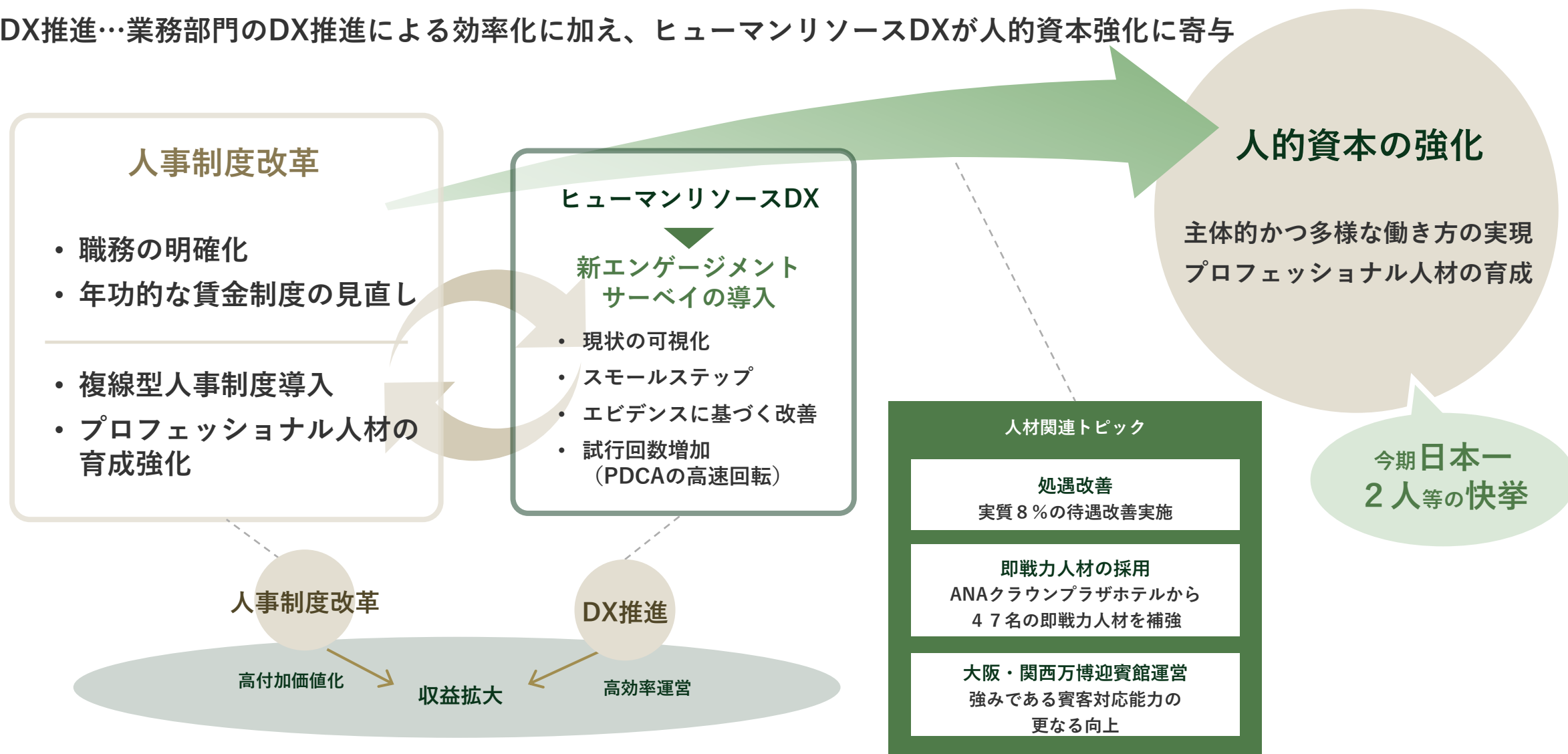
* 各ホテル同グレード及びそれ以上のホテルを選抜し平均化（Trust Youから当社作成）



ホテル事業のバリューアップ②成長に向けた基盤強化（人的資本拡充）

|| 当社の事業成長に欠かせない人的資本の拡充・強化を期し、人事制度改革を推進。2026年4月より新制度運用開始予定

|| DX推進…業務部門のDX推進による効率化に加え、ヒューマンリソースDXが人的資本強化に寄与



ホテル事業のバリューアップ②成長に向けた基盤強化（人的資本拡充）

24

- || 社内コンテストの積極的な実施や、受賞経験者による直接指導等、プロフェッショナル人材育成の好循環が機能
- || 卓越したサービスによるおもてなしを提供することで、ホテルの高付加価値化に貢献

一般社団法人フランスレストラン文化振興協会（APGF）主催

第21回メートル・ド・セルヴィス杯
サービスコンクール

優勝

岩本 啓史

リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニエット コレクション
レストラン シャンボール サブマネジャー



テーブルセッティング、料理の知識、お客様との会話力
など、卓越したサービスの総合力とホスピタリティが認められました。



レストラン「シャンボール」

一般社団法人日本ホテルバーメンズ協会（HBA）主催

第34回 HBA CLASSIC創作カクテルコンペティション
チャンピオンシップ&カクテルフェスティバル 2025

グランプリ

池上 祐子

リーガロイヤルホテル大阪 ヴィニエット コレクション
セラーバー バーテンダー



歴史と権威ある舞台で、独創性、知識力、技術力が認められました。

受賞カクテル
Armonías（アルモニアス）
～多様性の未来へ～

セラーバーにてご提供



ホテル事業のバリューアップ②成長に向けた基盤強化（人的資本拡充）

25

- || 世界の賓客に対する接客や食事提供を請け負う迎賓館運営業務を1970年大阪万博に引き続き受託
- || 国内外から訪れる賓客へ接遇や飲食サービスを提供し、ノウハウの蓄積・継承によるブランド力向上に寄与

継承し続ける精神・サービス技術

あたたかなおもてなし

美味しい料理

心地よい空間

迎賓館業務に、延べ46名が従事。延べ100回を超えるVIP顧客接遇を経験。強みである賓客対応能力の更なる向上。

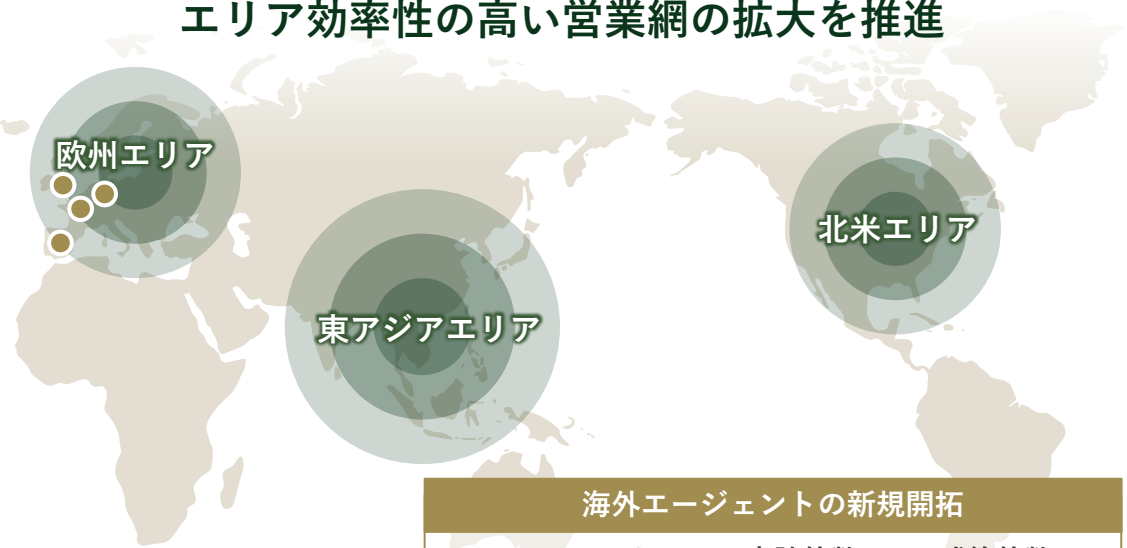


ホテル事業のバリューアップ②成長に向けた基盤強化（海外セールス強化）

- 海外展示会、商談会への積極的な参加に加え、REP（営業代行会社）も活用し、重層的な営業活動を推進
- 外国人営業員を引き続き増強

海外展示会や商談会への参加と新規エージェントおよび新規REPの開拓

東アジアに強みのあるリーガロイヤルホテルと
北米と欧州に強みのある芝パークホテルで、
エリア効率性の高い営業網の拡大を推進

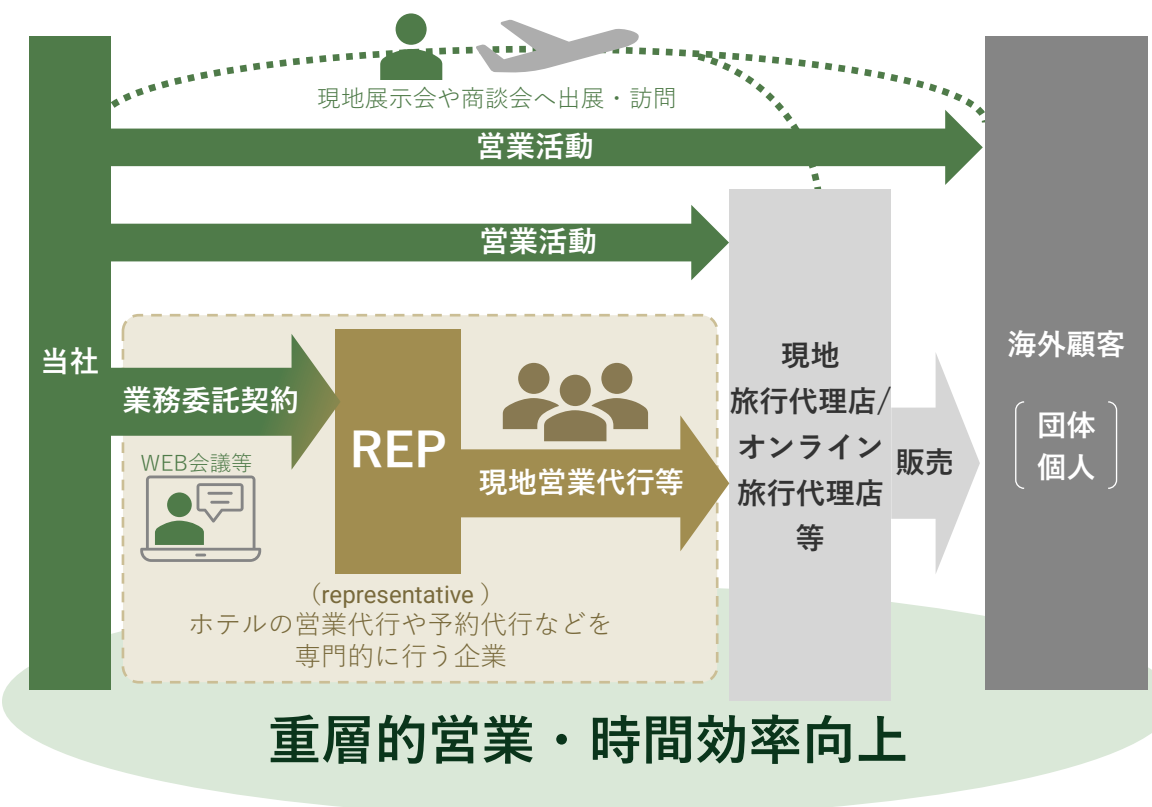


- 展示会出展
- 新規REP開拓

海外エージェントの新規開拓		
	商談件数	成約件数
ロイヤルホテル	58社	2社
芝パークホテル	56社	10社
共同	35社	
合計	149社	

REPを通した現地営業活動の強化

個人旅行者などの海外顧客へのアプローチを増やし、
海外販売力を増強



重層的営業・時間効率向上



|| 株主優待制度に導入したリーガメンバーポイント付与制度の認知度向上を図る。株主の皆様への定着に取り組む

基本方針

利益還元を経営の重要課題と考え、安定配当を行う

配当金

	2025年3月期	2026年3月期（予想）
1株当たり 配当金	5円	5円

株主優待制度の充実

2025年3月期の株主優待より、リーガメンバーズポイント付与制度を導入。
2025/7月末期限の申請された株主様へポイント付与を実施。
今後当制度の定着と拡大に向けて取り組む。

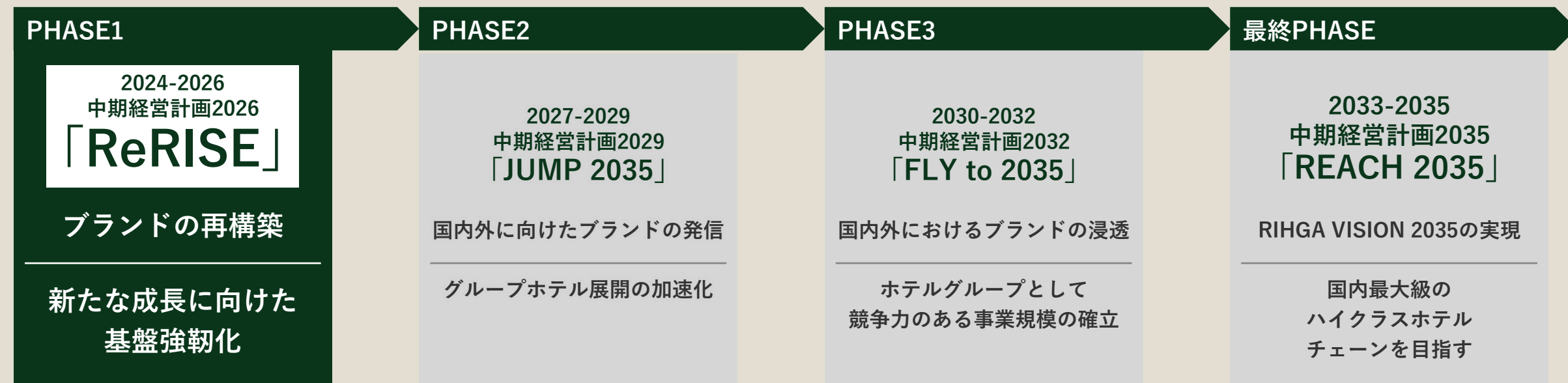
優待内容 保有株式数	リーガポイント（ポイント）	
	保有期間3年未満	保有期間3年以上
500～999株	5,000	7,000
1,000株～	10,000	12,000

株主優待制度の充実によりファン株主の増加を期待

|| 「RIHGA VISION 2035」を策定し、長期・持続的な企業価値拡大に向け各成長フェーズにおいて実現するゴールを設定

|| 現「ReRISE」期は、成長の土台となる基盤強靱化を優先課題とし、下記戦略1～3を基本戦略として施策推進中

RIHGA VISION 2035



戦略1

ホテルブランドカテゴリーの
再編成・新規展開

戦略2

ホテル事業のバリューアップ

戦略3

インオーガニックな成長も視野に入れた
新規出店パイプラインの拡大



財務基盤の安定化

- || コロナ期以降、純資産の充実など財務状況は大幅に改善
- || 今後は安定した財務基盤を背景に、さらなる成長投資を実施していく

BS推移 単位：百万円	2019/3期末	2022/3期末	2023/3期末	2025/3期末
	<div>現預金 4,591</div> <div>不動産 41,470</div> <div>借入金 30,235</div> <div>その他 15,120</div> <div>純資産 19,343</div> <div>その他 18,637</div>	<div>現預金 3,561</div> <div>不動産 40,242</div> <div>借入金 31,800</div> <div>その他 12,032</div> <div>純資産 16,088</div> <div>その他 16,117</div>	<div>不動産の売却により、 借入金圧縮と優先株式償却</div> <div>現預金 14,363</div> <div>不動産 320</div> <div>借入金 0</div> <div>その他 13,163</div> <div>純資産 18,942</div> <div>その他 17,422</div>	<div>現預金を活用した良質な M&Aや投資により、 優良な純資産を構築</div> <div>借入金 442</div> <div>現預金 11,359</div> <div>不動産 7,294</div> <div>借入金 0</div> <div>その他 14,884</div> <div>純資産 23,035</div> <div>その他 19,708</div>
	優先株式 15,000	優先株式 25,000	優先株式 6,275	優先株式 6,275
	自己資本比率 29.8%	自己資本比率 26.8%	自己資本比率 59.0%	自己資本比率 59.0%
	有利子負債比率 156.3%	有利子負債比率 197.7%	有利子負債比率 0.0%	有利子負債比率 1.9%



4. Appendix

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

株式会社ロイヤルホテル

パーパス

人を、地域を、日本を、世界を、
あたたかい心で満たしていこう。

RIHGA VISION 2035

安心のサービスと感動のおもてなしで世界中のお客さまの期待を超える
日本最高峰のホテルグループ

信頼と期待

時代を超えて「受け継ぐ価値」

あたたかいおもてなし

美味しい料理

心地よい空間

時代と共に「進化していく価値」

利便性の向上

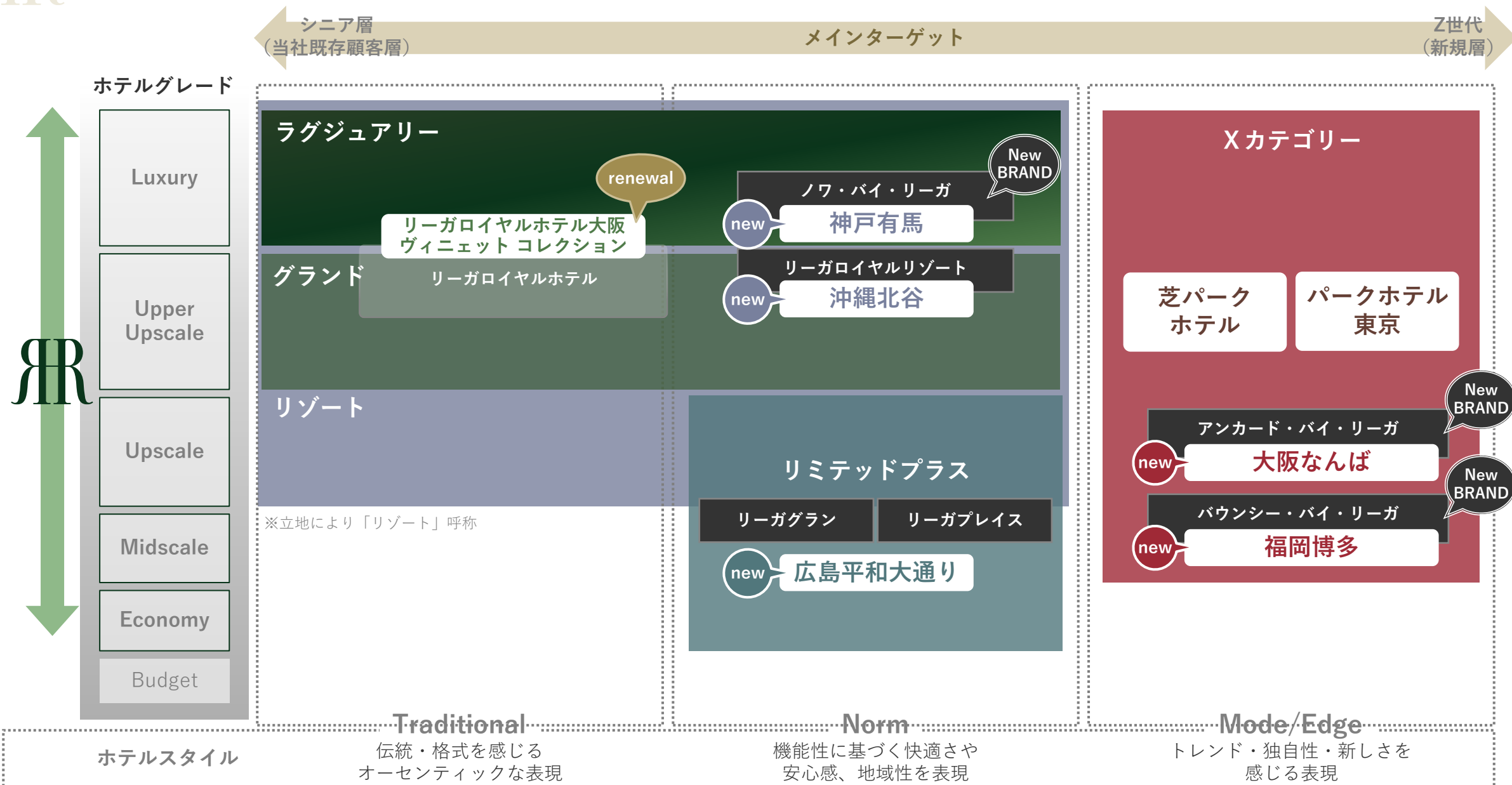
多様性の尊重

安心安全の追求



(ご参考) ブランドカテゴリー

32





（ご参考）ブランドコンセプト

33

ラグジュアリー	グランド	リミテッドプラス	リゾート	Xカテゴリー
国内外の富裕層ニーズに応える、パーソナライズされた最上級のホテル体験、ファシリティを提供する	地域の顔・社交の場に相応しいスケールで、プライベートからビジネスまで幅広いニーズに応えるフルサービス型ホテル	ビジネス・観光に対応するシンプルな機能性に加え、当社の強みを活かした食のこだわりや地域性の表現などの付加価値を提供する	ビーチ、スノー、温泉など目的性の高いリゾートを、幅広いスケールで展開。グループ利用やコンドミニアムにも対応する	立地を活かしたコンセプト、様々な趣味嗜好に応えるテーマ性、体験を楽しむ独自性の高いホテル
	ブランド名	ブランド名	ブランド名	ブランド名
	リーガロイヤルホテル	リーガロイヤルグラン	リーガロイヤルリゾート	アンカード・バイ・リーガ new
	旗艦となるホテルブランドを含むチェーン全体のサービス基準の礎	リーガグラン	ノワ・バイ・リーガ new	「錨をおろす」という意味の「アンカード」を由来とし、ホテルの立地＝ローカル（地元）のエッセンスを濃く感じながら、疲れを癒してアクティブな旅の朝を迎えるための機能を備えたホテルブランド。
		リーガプレイス	「ノワ」は、「～の和」「～の輪」という言葉から、人や自然とのつながり、調和からイメージした造語。ロイヤルホテルらしい「あたたかいおもてなし」をベースに、各地域とのつながりを感じられる空間、食で滞在を彩る上質で洗練された「和のリトリート」を提供するブランド。	バウンシー・バイ・リーガ new
				音楽、食などのエンターテインメントにフォーカスし、心躍る新しい滞在スタイルを提案。「バウンシー」は弾むという意味の「バウンス」から、心弾むイメージを連想。コンセプトに沿った様々な仕掛けや利便性を重視したコンパクトな客室により、若いトラベラーに向けたブランドを目指す。
ブランド価値の向上		高収益モデルの確立		多様化するニーズに対応する機能拡大、新コンセプト開発



マーケットの見通しと当社の展開

|| インバウンド需要を中心に国内マーケットの活況が見込まれ、各地で国際的なイベントの開催や注目施設の開業も予定

2025年4月
リーガロイヤルホテル大阪
ヴィニエツト コレクション開業



訪日外国人観光客※
2030年
6,000万人目標

(参考)
2024年 **3,687**万人
2022年 **383**万人
2019年 **3,188**万人
(コロナ前)

2024年11月
芝パークホテル
資本業務提携

2025年10月
芝パークホテル
完全子会社化

大阪・関西万博開催



沖縄北部
テーマパーク
JUNGLIA(ジャングリア)開業

世界陸上開催(東京)



アジア大会開催 | 愛知

国際園芸博開催(横浜)



ワールドマスタース
関西開催



2029年

2028年

2027年

2026年

2025年

なにわ筋線開通
関西国際空港拡張

北海道新幹線
全線開業

2030年

2030年以降



KAMISEYA
テーマパーク開業(横浜)

※出所:「明日の日本を支える観光ビジョン」首相官邸2016年3月

|| サステナビリティ委員会を設置し、直接経営に反映できる体制を整備

事業活動を通じた 環境保全への取組

- ・ 脱プラスチック
（リサイクル、リデュース）
- ・ 節水・省電力機器への転換
- ・ エコ清掃の呼びかけ
- ・ 食材ロスの削減



DE&I※を軸とした 働きやすい・ 働きがいのある 環境づくり

- ・ 女性活躍の推進
- ・ 育児・介護休業取得の推進
- ・ 健康戦略MAPに基づく施策の推進
- ・ 学習機会支援
- ・ 多様性の推進



※DE&I（ダイバーシティ・エクイティ・インクルージョン）：「ダイバーシティ・インクルージョン」＋「公平／公正性（Equity）」

地域社会と積極的に関わり、 地域の魅力を発信

- ・ 地域催事への協力
- ・ 周辺清掃活動
- ・ 地元製品の提供
- ・ 中高生への学習提供
- ・ 周辺施設との提携



「安心・安全」を守る 組織づくりの推進

- ・ 取締役の多様性担保
- ・ コンプライアンス研修の実施
- ・ 自然災害への備え
- ・ バリアフリーの推進
- ・ 人権ポリシーの策定
- ・ 食の安全への取り組み





社名	株式会社ロイヤルホテル
本社所在地	大阪府大阪市北区中之島5丁目3番68号
創立年月	1932年（昭和7年） 2月
開業年月	1935年（昭和10年） 1月
代表取締役社長	植田 文一
資本金	1億円
発行済株式総数	15,303,369株（東証スタンダード上場）
従業員数（連結）	1,985名（2025年3月31日時点）
事業内容	宿泊施設の経営、食堂・宴会場の経営、スポーツ設備の運営、食料品の販売

|| 国賓をはじめ国内外のお客様をお迎えするホテルとして誕生

|| 2023年にはホテル運営に特化した企業として新たなスタートを切り、2035年には創立100周年を迎えます

1932～ 大阪に近代的ホテルを

- 1932 株式会社新大阪ホテル創立
- 1935 新大阪ホテル開業
- 1959 都市センターホテル開業
- 1965 リーガロイヤルホテル（大阪）開業（旧大阪ロイヤルホテル）
- 1967 株式会社ロイヤルホテルに改称
- 1969 リーガロイヤルホテル京都（旧京都グランドホテル）開業
- 1970 日本万博博覧会（日本万国博覧会）（大阪開催）「迎賓館」および水上レストラン運営受託
- 1973 リーガロイヤルホテル（大阪）新館開業
- 1981 リーガプレイス肥後橋（旧中之島イン）開業

1990～ No.1ホテルグループに向かって

- 1990 グループ名をリーガロイヤルホテルグループに改称
国際花と緑の博覧会（大阪開催）「迎賓館」運営受託
リーガロイヤルホテル新居浜開業
- 1992 リーガホテルゼスト高松営業開始
- 1993 リーガロイヤルホテル小倉開業
- 1994 リーガロイヤルホテル広島開業
リーガロイヤルホテル東京（旧リーガロイヤルホテル早稲田）開業
- 1995 アジア太平洋経済協力（APEC）大阪会議

2000～ 磨かれる「おもてなし」の心

- 2008 G8 財務大臣会合
- 2012 リーガロイヤルグラン沖縄開業
SIBOS SWIFT International Banking Operations Seminar
- 2016 G7 北九州エネルギー大臣会合
- 2019 G20 大阪サミット
- 2020 リーガグラン京都開業
- 2022 リーガロイヤル・ラグーナ・グアム・リゾート開業
- 2023 G7 広島サミット/G7 大阪・堺貿易大臣会合
リーガプレイス京都四条烏丸開業
「ベントール・グリーンオーク」との資本業務提携締結

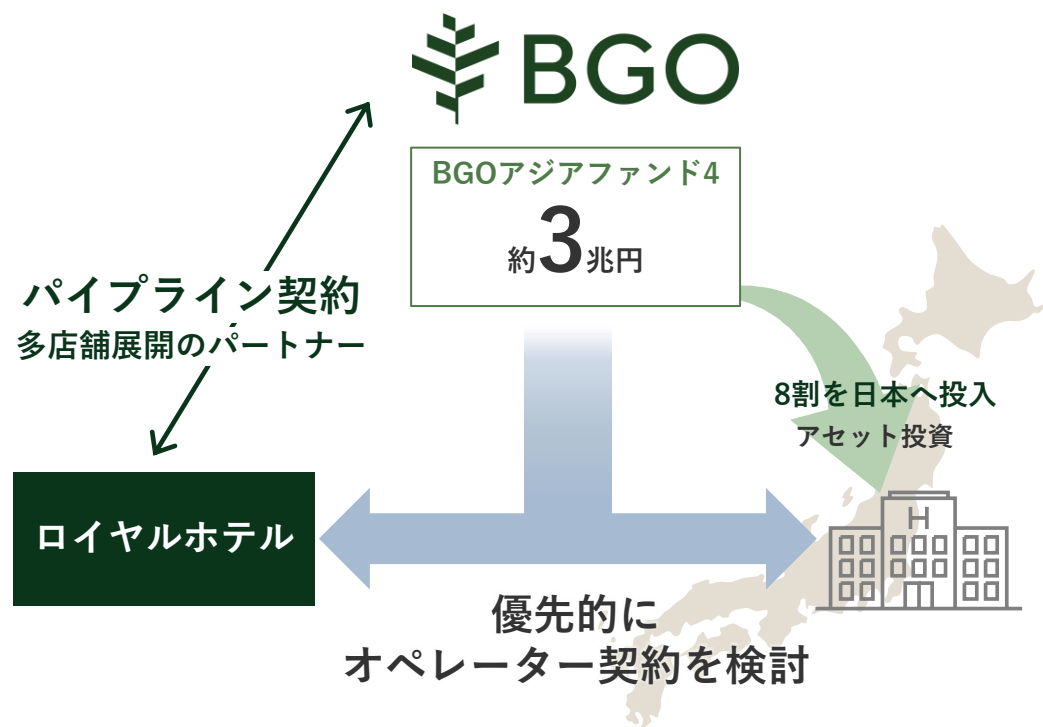
2024～ 新たなステージへ

- 2024 芝パークホテルとの資本業務提携
芝パークホテル・パークホテル東京がグループに加わる
- 2025 リーガロイヤルホテル大阪ヴィニエットコレクション開業（改装）
日本国際博覧会（大阪開催）「迎賓館」運営受託
- 2026 リーガロイヤルリゾート沖縄 北谷
アンカード・バイ・リーガ 大阪なんば
バウンシー・バイ・リーガ 福岡博多
- 2028 ノワ・バイ・リーガ 神戸有馬
広島平和通り

パイプライン拡大によるインオーガニック成長

|| BGO社がアジア特化の「BGOアジアファンド4」を設立。3兆円を超える投資が可能に
そのうち80%の資金を日本に投入予定

|| パイプライン契約をしている当社へのオペレーター契約の可能性が拡大。多店舗展開の加速を期待



▶ 運営委託契約 第1弾



ロイヤルホテル



IHG
HOTELS & RESORTS

RRH大阪のパートナー

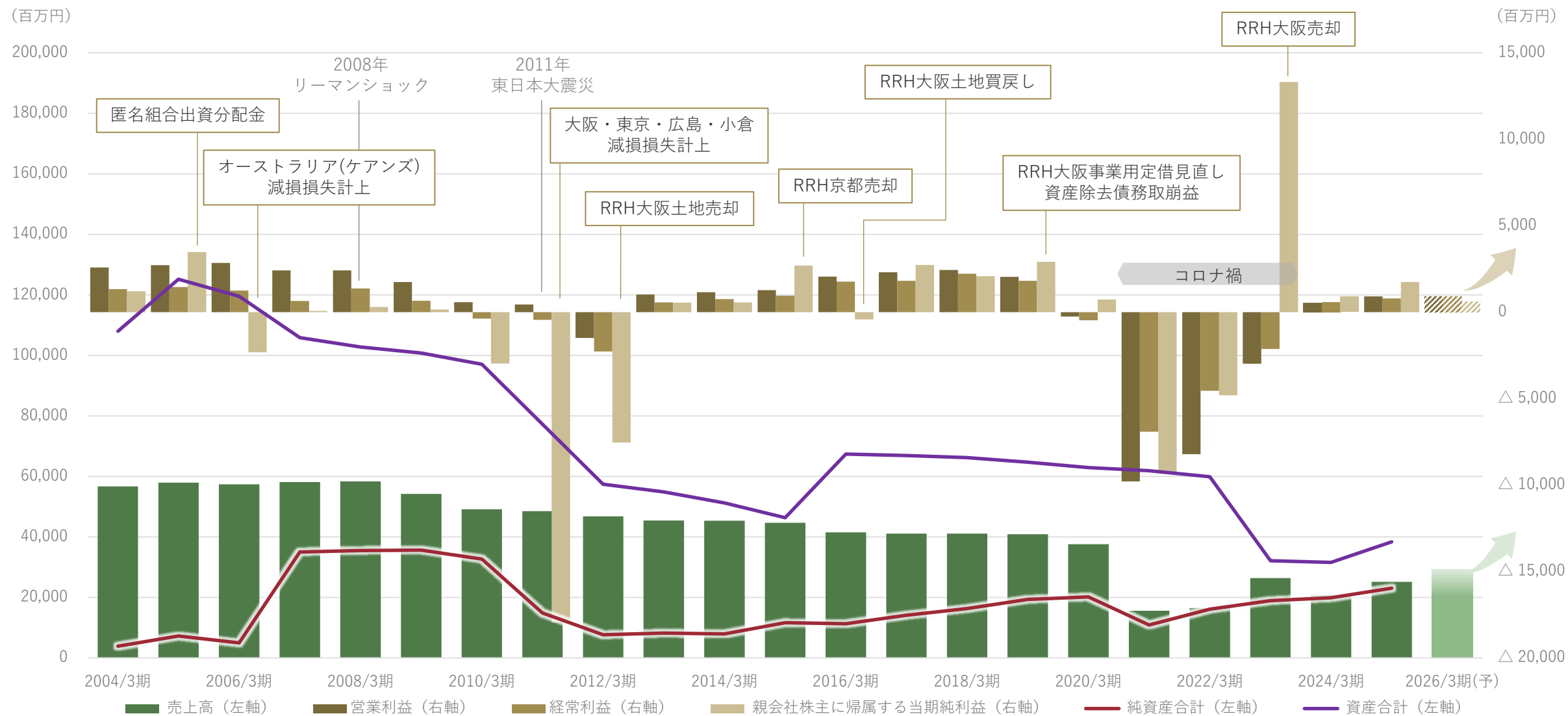
* IHGのラグジュアリーカテゴリの中のコレクションブランド

BGO

- カナダ大手生命保険会社グループSun Life Financial 傘下の、不動産プライベート・エクイティファンド運営会社
- 2023年6月末現在、世界28拠点、運用総資産約830億米ドル（約12兆円）
- 日本国内の不動産関連投資実績8,000億円程度。

IHG

- インターコンチネンタルホテルズグループ
- イギリスに本部を置き、19ホテルブランドで世界100か国以上、6,000軒以上のホテルを展開する世界的なホテルグループ





※2017/9/26以前、株価・出来高調整済

単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
売上高	41,076	40,884	37,601	15,638	16,465	26,397	20,668	25,164
客室	10,225	10,255	9,492	3,856	4,264	8,410	7,153	10,294
宴会	14,057	14,039	12,507	3,131	4,285	8,082	4,689	5,468
食堂	8,587	8,942	8,398	3,773	3,543	5,196	2,901	3,518
その他	8,206	7,646	7,202	4,876	4,371	4,709	5,924	5,882
売上総利益	30,792	30,532	28,188	11,633	12,470	20,675	17,059	21,076
販売費及び一般管理費	28,349	28,485	28,445	21,427	20,688	23,661	16,501	20,163
営業利益	2,442	2,047	△257	△9,794	△8,217	△2,986	557	912
経常利益	2,220	1,816	△465	△6,916	△4,550	△2,129	587	796
親会社株主に帰属する 当期純利益	2,079	2,908	727	△9,334	△4,811	13,315	901	1,737
1株当たり当期純利益（円）	203.02	283.97	71.02	△911.34	△469.73	1,252.77	55.30	109.25
配当金（円）	—	—	—	—	—	—	5	5
自己資本当期純利益率（％）	13.7	16.3	3.7	△60.2	△35.7	76.0	4.6	8.4
営業活動によるキャッシュ・フロー	3,379	3,790	1,087	△3,979	△4,100	81	△1,624	1,204
投資活動によるキャッシュ・フロー	△1,765	160	△1,590	△1,319	△1,128	53,419	△478	△3,799
財務活動によるキャッシュ・フロー	△2,316	△2,096	△1,515	7,482	4,033	△42,698	△36	△260
現金及び現金同等物の期末残高	2,735	4,589	2,570	4,754	3,559	14,361	12,221	11,184
従業員数（名）	2,038	2,049	2,036	2,059	1,832	1,678	1,726	1,985

単位：百万円

	2018年3月期	2019年3月期	2020年3月期	2021年3月期	2022年3月期	2023年3月期	2024年3月期	2025年3月期
流動資産	7,173	8,397	4,919	7,260	5,922	17,305	16,464	15,339
現金及び預金	2,737	4,591	2,572	4,756	3,561	14,363	12,337	11,359
固定資産	59,034	56,300	57,971	54,607	53,998	14,799	15,103	23,022
有形固定資産	44,665	42,869	42,991	42,159	41,452	812	965	8,248
無形固定資産	179	281	201	191	303	266	207	192
投資その他の資産	14,189	13,149	14,778	12,256	12,241	13,720	13,929	14,581
資産合計	66,207	64,698	62,890	61,867	59,920	32,105	31,568	38,361
流動負債	7,859	7,417	6,379	40,098	8,711	5,387	4,257	4,428
短期借入金	1,615	1,567	2,010	35,058	5,400	—	—	89
固定負債	41,989	37,938	36,326	10,872	35,120	7,774	7,433	10,897
長期借入金	30,235	28,668	27,158	2,000	26,400	—	—	353
リース負債	458	262	271	139	87	38	38	191
負債合計	49,848	45,355	42,705	50,970	43,832	13,162	11,690	15,325
株主資本	16,660	19,568	20,295	10,961	16,149	18,972	19,873	21,477
その他包括利益累計額	△337	△300	△163	△64	△61	△29	3	△2
純資産合計	16,358	19,343	20,184	10,896	16,088	18,942	19,877	23,035
負債純資産合計	66,207	64,698	62,890	61,867	59,920	32,105	31,568	38,361
1株当たり純資産（円）	129.10	416.71	501.13	△400.67	△870.09	829.40	890.58	995.22
自己資本比率（％）	24.7	29.8	32.0	17.6	26.8	59.0	63.0	56.0

お問い合わせ先

株式会社ロイヤルホテル

経営企画部

email：rh.ir@rihga.co.jp

本資料で記述されている業績予想並びに将来予測は、現在における入手可能な情報に基づき当社が判断した内容であり、潜在的リスクおよび不確実性が含まれます。このため、様々な要因の変化によって、実際の業績等は記述されている内容と大きく異なる可能性がありますのでご了承ください。



RIHGA ROYAL HOTELS

2026年3月期第2四半期(中間期) 決算説明会

2025年12月8日

株式会社ロイヤルホテル

証券コード | 9713